

# 新学術領域研究「精密制御反応場」

## 第4回公開シンポジウムプログラム

平成30年1月10日(水)～11日(木)

東京大学 武田先端知ビル 武田ホール

1月10日(水曜日)

- 13:00～13:10 領域代表挨拶
- 13:10～13:30 ニトロアレーンのクロスカップリング反応  
中尾 佳亮 (京大院工)
- 13:30～13:50 系内発生塩基触媒を用いる選択的C-H修飾反応開発  
根東 義則 (東北大院薬)
- 13:50～14:10 フタロシアン金属触媒を用いた生物活性物質の合成  
徳山 英利 (東北大院薬)
- 14:10～14:30 金属触媒による高選択的変換反応の理論解析  
森 聖治 (茨城大理)
- 14:30～14:50 持続可能資源活用に立脚した触媒的フッ素官能基導入法の開発  
網井 秀樹 (群馬大院理工)
- 14:50～15:10 機能性配位子を持つイリジウム錯体触媒を活用した  
高難度脱水素化反応  
藤田 健一 (京大院人環)
- 15:10～15:30 コーヒーブレイク
- 15:30～15:50 ベンゾフラン環内へのヘテロ原子挿入  
依光 英樹 (京大院理)
- 15:50～16:10 ニッケル触媒による芳香族カルバメートの脱炭酸反応  
鳶巢 守 (阪大院工)
- 16:10～16:30 化学選択的なエノラートの酸化的クロスカップリング反応  
矢崎 亮 (九大院薬)
- 16:30～17:30 **特別講演**  
「機能材料開発における2つの反応制御」  
大野 充 (株式会社ダイセル)
- 17:30～17:40 講評
- 18:00～20:00 懇親会 (武田先端知ビル5階ホワイエ)

1月11日(木曜日)

- 9:30~09:50 多座配位子の創出に基づく金属錯体反応場の構築と新反応開発  
岩澤 伸治 (東工大理)
- 9:50~10:10 精密立体制御を実現する反応活性点の構築と分子変換  
松永 茂樹 (北大院薬)
- 10:10~10:30 有機ラジカルの精密設計が拓く新規選択的C( $sp^3$ )-H変換法  
生長幸之助 (東大院薬)
- 10:30~10:50 PNN-Ru-DMSO錯体を触媒に用いるケトン類の不斉水素化の機構  
北村 雅人 (名大院創薬)
- 10:50~11:10 生体触媒反応場の精密制御に資する理論計算手法の開発と応用  
長谷川淳也 (北大触媒研)
- 11:10~11:30 タンパク質の構造変化に基づく生体分子反応場の動的構造効果  
松尾 貴史 (奈良先端大・物質)
- 11:30~13:00 昼食休憩
- 13:00~13:20 二酸化炭素とエポキシドのエナンチオ選択的付加環化  
依馬 正 (岡山大院自然)
- 13:20~13:40 ナノポーラス金触媒を反応場とする結合活性化反応の開発  
金 鉄男 (東北大院理)
- 13:40~14:00 1,2,3-トリアゾリウムアミドの分子設計にもとづく  
触媒機能の創出と応用  
大松 亨介 (名大 ITbM)
- 14:00~14:20 動的なキラル構造制御を介した不斉反応場の構築  
逢坂 直樹 (名大院工)
- 14:20~14:40 フルオラスサブフタロシアニン類の化学構造と触媒反応  
柴田 哲男 (名工大院工)
- 14:40~15:00 空間デザイン可能な触媒機能性多孔質有機塩による  
超分子ナノリアクターの創製  
藤内 謙光 (阪大院工)
- 15:00~15:20 事務連絡・閉会